

建築設計における調査分析と空間表現の統合的手法としての Zine 制作 を通した空間表現の拡張可能性についての研究

—芝浦工業大学プロジェクトゼミ・千駄木地域を対象とした実践を通して—

芝浦工業大学 建築学部 准教授 本多 久美子
(行動建築・都市デザイン研究室)



1. はじめに（研究の背景と目的）

本報告書は、戸田育英財団より助成いただいた研究費を活用して実施した研究・教育活動の成果をとりまとめたものである。

建築設計のプロセスは、しばしば二つの局面に大別される。一つは、敷地やそれを取り巻く地域の文脈を読み解く「調査分析」であり、もう一つは、そこで得た理解を図面や模型として描き出す「空間表現」である。しかし実務・教育の双方において、この両者はときに別個の作業として切り離され、調査分析で捉えた地域の空気や情緒、人々のつながりといった質的・体験的な価値が、最終的な空間表現へと十分に引き継がれないという課題がある。

本研究は、この調査分析と空間表現とを架橋する統合的手法として「Zine（リトルプレス）制作」に着目し、Zine 制作を通して建築の空間表現がどのように拡張されうるかを探ることを目的とする。Zine は、文章・写真・色・レイアウト・語りを編集として束ねる表現媒体であり、図面や模型とは異なる仕方で、場所の「意味」や「たたずまい」を捉え、他者へと伝えることができる。すなわち Zine 制作は、調査分析の成果を表現へと翻訳する行為であると同時に、それ自体が一つの空間表現の形式たりうる。

筆者が主宰する芝浦工業大学建築学部・行動建築都市デザイン研究室は、人の「行動」や「言葉」を手がかりに、建築・都市を単なる物理的な「器」ではなく人々の営みを支える「舞台」として捉え、物理的なデザインを通して人々の愛着や誇りといった「まちの意味」「まちの価値」そのものをいかにデザインしうるかを問うてきた。本研究は、この問題意識のもとで、学部三年生を対象とするプロジェクトゼミを実践の場とし、東京都文京区千駄木地域を対象として、調査分析から Zine による表現、そして建築空間の提案へと至る一連の流れを試行したものである。本報告では、その枠組みと実施プロセス、得られた知見、ならびに Zine 制作がもたらす空間表現の拡張可能性について述べる。